



「コスタリカの歴史と自然、そして思いやりを肌で感じた2日間」

サンホセ日本人学校 校長 半山章人

コスタリカではこの時期、雨季から乾季への移り変わりが感じられ、朝は気温が少し低くなりますが、青空が広がる日が多くなってきました。サンホセ日本人学校の運動場からはバルバの山並みがとてもきれいに见えます。しかし、狭いコスタリカ国内でも、地域によって天候は変わります。宿泊学習で訪れたカルタゴ・カチ湖方面では2日間とも雨が降り続きました。そのような悪天候の中でも、雨に勝る「自立と思いやり」の姿が見られ、子どもたちの笑顔あふれる活動ができました。

自分の荷物だけでなく学校全体の荷物を運ぶ姿、低学年のバディの手を握り行動する姿や食事を食べやすく小さく切っている姿、マス釣りでは手を携えて一緒に釣り上げる姿、バス内ではバディの体調を気遣う姿など、人を思いやる姿をたくさん見ることができました。また、集合時間を確認し時間を守ろうとする姿、レクリエーションを通して楽しみ、絆を深めようとする姿など、集団生活で実行委員会がお願いしていた「全体の約束」を実行しようとする意識の高まりを一人ひとりの行動から感じました。学習もしっかりしていました。事前学習はもちろん、コーヒーの集積場では学校で行っている手作業と大きな機械で大量にしていることを比べ、しっかりとメモをとる姿、なぜ湖の水草が減っているのとか、珍しい鳥を見つけると「先生、あそこに…」と好奇心旺盛な姿、また雨の中のコーヒー収穫体験では両手で必死になって赤い実を採る姿が見られ「働く」ということも実感できたと思います。

日頃の学校生活の中で築き上げてきた思いやり、また学びへの意欲が、親元を離れて「体験」する中でさらに高まったのではないのでしょうか。

宿泊学習を成功させたいとの思いで早くから準備そして当日のお世話をしてくれた実行委員会のみなさんの努力は、目に見える形となって表れました。さらには、安全第一で運転していただいたドライバーさん、きめ細やかに説明していただいたランカスター植物園のガイドさん、子どもたちの経験の場をたくさん与えてくださったホテルのオーナーさん、そして陰で支えていただいたたくさんの従業員の皆様、「お・も・て・な・し」の心をありがとうございました。



「コスタリカの方と、そして日本の方との交流」

【サンアンソニー校との交流】

この学校との交流の歴史は古く、昭和52年から続いています。今年は音楽を通じて交流を深めました。



【コスタリカ大学生との交流】

コスタリカ大学で日本語を学んでいる学生さんと習字や音楽の授業を通して交流しました。



【世界を旅するマジシャン

岩崎圭一さんとの出会い】

2002年に日本を離れて、人力で世界を旅している岩崎さん。現在は中南米を北上し、アメリカから手漕ぎボートで日本に帰ります。

